

2025年7月25日  
イオン株式会社

## 2040年までに全店の冷凍・冷蔵機器をノンフロン化へ ～新目標策定で温室効果ガス削減を加速～

イオンはこのたび、グループの環境戦略における新たな方針として、2040年までに、日本国内のグループ全店舗における、冷凍・冷蔵機器の自然冷媒（ノンフロン）化を完了する目標を設定しました。

イオンは、2018年に策定した「脱炭素ビジョン」に基づき、温室効果ガス排出の削減と持続可能な店舗運営の実現に向け、冷凍・冷蔵機器の自然冷媒（ノンフロン）化を段階的に進めています。

フロン類の漏洩防止については、「脱炭素ビジョン」に先駆け、2011年に「自然冷媒宣言」を発表しました。以降、CO<sub>2</sub>や炭化水素を用いた自然冷媒機器の導入を段階的に進め、2025年2月末時点で約5,300台を展開しています。

しかしながら、多くの店舗では依然としてフロン冷媒が使用されており、気候変動対応・老朽設備対策、そして企業の社会的責任の観点からも、脱フロン転換は急務となっています。

こうした状況を踏まえ、イオンはノンフロン転換を「脱炭素ビジョン」実現に向けた重要なステップと位置づけ、2040年までに日本国内のすべての店舗の冷凍・冷蔵機器を自然冷媒へ切り替えるという明確な行動目標を新たに掲げました。

今後もイオンは、脱炭素社会の実現に向け、気候変動に対する責任ある行動を一層加速してまいります。

### 記

1. 新たな目標  
2040年度末までに、日本国内すべての店舗における冷凍・冷蔵機器を自然冷媒（ノンフロン）へ入れ替え
2. 目標設定の意義  
 環境的意義：GWP（地球温暖化係数）の高いフロン類からの計画的転換による温室効果ガス削減  
 経済的意義：老朽機器の更新による保守費削減と補助金活用による導入促進  
 対外的意義：2040年ネットゼロ達成に向けた重要施策として、ステークホルダーに向けた説明力を強化
3. 今後の展開計画（進捗目標）  
老朽機器を優先に、店舗活性化や改装タイミングに合わせて、順次切り替えを実施してまいります。

2025年度	全体の 約 4%
2030年度	全体の 約30%
2040年度	全体の 100%

以上

## 【ご参考】

### ・イオン脱炭素ビジョンについて

#### イオン脱炭素ビジョン

「脱炭素社会」の実現を目指し、「イオン脱炭素ビジョン」、および中間目標として2030年の温室効果ガスの排出削減目標を策定しました。

イオンは3つの視点で温室効果ガス(以下CO<sub>2</sub>など)排出削減に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献します。

##### 店舗

店舗で排出するCO<sub>2</sub>などを総量でゼロにします。

##### 商品・物流

事業の過程で発生するCO<sub>2</sub>などをゼロにする努力を続けます。

##### お客さまとともに

すべてのお客さまとともに、脱炭素社会の実現に努めます。

##### 中間目標

2030年までに店舗使用電力の50%を再生可能エネルギーに切り替え(国内)

##### 達成手段の考え方

イオンのCO<sub>2</sub>排出量の約9割が電力由来 》 店舗使用電力の削減と再エネ転換 **省エネ** **再エネ**

達成までのロードマップ



### ・イオン自然冷媒宣言について

イオン自然冷媒宣言：「フロン類の漏洩防止と自然冷媒設備の導入推進」

冷蔵・冷凍設備に使用されているフロン類は地球温暖化係数が非常に高く、大気への漏洩が問題となっていることから自然冷媒への転換が求められてきました。イオンは2009年に日本小売業で初めて、地球温暖化係数の小さい自然冷媒（ノンフロン）の冷蔵・冷凍機器を導入。その後、2011年には「イオン自然冷媒宣言」を発表し、以降も新店舗への導入などを中心に進めてきました。自然冷媒の導入に向けてはコストが高いことや製造メーカーが少ないなどの課題がありますが、同業種・他業種などと連携し、積極的に導入を進めています。